

第5回 江山地区義務教育学校設立準備委員会

平成31年1月16日(水) 19:00

鳥取市立美和小学校 2階 多目的ホール

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

(1) 3部会の検討状況について

- ・すごい！学校創造部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- ・教育環境整備部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2
- ・江山の宝応援部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3

4 議 事

- (1) ブロック制について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料4
- (2) 校名募集要項等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5
- (3) 校名案の選定方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料6
- (4) 広報紙の発行について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料7
- (5) その他

5 その他

6 閉 会

江山地区義務教育学校設立準備委員会委員名簿

	区 分	役 職 等	氏 名	部 会	備 考
1	地域代表	神戸地区区長会推薦	栗本 保夫	すごい！学校創造部会	委員長
2	地域代表	美穂地区区長会推薦	松本 広幸	教育環境整備部会	
3	地域代表	大和地区区長会推薦	中村 徹	江山の宝応援部会	
4	保護者代表	美和保育園保護者会会長	森田 匡隆	教育環境整備部会	
5	保護者代表	美和保育園保護者会	森下 将伍	江山の宝応援部会	
6	保護者代表	神戸小学校PTA会長	山本 賢璋	江山の宝応援部会	部会長
7	保護者代表	神戸小学校PTA副会長	坂本 訓子	すごい！学校創造部会	
8	保護者代表	神戸小学校PTA	牛尾 早知	教育環境整備部会	
9	保護者代表	美和小学校PTA会長	上田 光徳	教育環境整備部会	副委員長、部会長
10	保護者代表	美和小学校PTA副会長	有田 京子	すごい！学校創造部会	
11	保護者代表	美和小学校PTA	前田 真琴	江山の宝応援部会	
12	保護者代表	江山中学校PTA会長	谷口 範仁	すごい！学校創造部会	
13	保護者代表	江山中学校PTA副会長	石尾 万紀子	江山の宝応援部会	
14	保護者代表	江山中学校PTA	山本 敏夫	教育環境整備部会	
15	保育園代表	美和保育園園長	塩見 雅代	すごい！学校創造部会	
16	保育園代表	美和保育園副園長	太田 信子	江山の宝応援部会	
17	学校代表	神戸小学校校長	高木 雅子	すごい！学校創造部会	部会長
18	学校代表	神戸小学校教頭	山根 啓嗣	江山の宝応援部会	副部会長
19	学校代表	神戸小学校教務主任	小谷 直和	教育環境整備部会	
20	学校代表	美和小学校校長	安田 政彦	教育環境整備部会	副部会長
21	学校代表	美和小学校教頭	武林 真理	教育環境整備部会	
22	学校代表	美和小学校教務主任	田村 薫	すごい！学校創造部会	
23	学校代表	江山中学校校長	山本 博美	江山の宝応援部会	副委員長
24	学校代表	江山中学校教頭	長谷川 理恵	すごい！学校創造部会	副部会長
25	学校代表	江山中学校教務主任	安木 良	すごい！学校創造部会	

(事務局) 市教委事務局次長兼教育総務課校区審議室長 中村 隆弘

市教委事務局学校教育課参事 田中 浩史

市教委事務局教育総務課校区審議室主査 石上 直彦

市教委事務局学校教育課主幹 福田 美奈

市教委事務局教育総務課校区審議室主任 大坪 宗臣

第 4 回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（すごい学校創造部会）概要について

1 日 時 平成30年12月17日（月） 19時 ～ 20時

2 会 場 神戸小学校 図書室

3 出席者 【委員】
すごい学校創造部会員 8 名
【教育委員会事務局（教育総務課）】
職員 1 名

4 議 事

(1) ブロック制について

○第2回及び第3回部会で意見交換したことをもとにして、部会長より提案を行う。学年段階の区切りを設定する意義及び区切りの根拠となる要素を確認後、江山中学校区の児童生徒の実態と根拠となる要素の関連から、「4-3-2」のブロック制を提案。その後、意見交換を行った。

【委員意見】

- ・提案通り4-3-2制が良いかと思う。一番配慮の必要な5年生が上学年を見て成長するのが良い。
- ・学力・体力・心の発達面からみてもよいと思う。5年生へのフォローをすればよいと思う。
- ・児童生徒にとっても、教職員にとっても、ブロック制導入当初が最も肝心である。特に教職員については、導入当初はもちろんのこと、継続して共通理解を進めることが必要。

⇒部会として、4-3-2制とすることを次回委員会に提案することを決定

(2) 3校の交流について

○本年度の神戸小・美和小交流学习のまとめをもとに、来年度の交流について意見交換を行った。

【委員意見】

- ・良い取り組みなので、来年度はもう少し交流を増やしてほしい。また、路線バスでの移動は、バスダイヤによる制約があるので、市の方で支援をしていただきたい。
- ・来年度は行事の交流のみならず、一緒に学習するような交流を行っていきたい。

(3) 小中一貫教育ビジョンについて

○他校の取組を参考にして、「めざす家庭像」、「めざす地域像」について意見交換を行った。今後は、以下の意見をもとにして、小中連携委員会等で「めざす家庭・地域像」を明記した「小中一貫教育ビジョン（案）」を作成し、次回部会で提案し協議することとした。

【委員意見】

<めざす家庭像>

- ・子どもが安心して過ごせる⇒心の安定
- ・温かい家庭愛に育まれる
- ・子どもが何でも言える・話せる
- ・子どもの手本となる親となる
- ・探究心を育てる場
- ・基本的な生活習慣を身につける場（言葉遣いなど）
- ・規範意識を育てる、きちんとしつけをする場
- ・子どもの変化に気づき、学校に伝えられる家庭⇒学校との連携
- ・子どもを通して学校のことがわかるような家庭
- ・学校との連携により、子どもが生き生きと生活できる家庭

<めざす地域像>

- ・子どもを温かく見守る、ほめる
- ・体験する、学ぶ場
- ・地域の伝統、文化を教える（外部の先生として）
- ・地域ぐるみで子育てする
- ・真剣に叱る⇒ルールを身につける
- ・子どもが地域貢献できる場に

5 その他

- ・次回の部会を、2月6日（水）19：00～20：30 神戸小学校で開催。

※大雪の場合は別会場も検討

第 4 回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（教育環境整備部会）概要について

- 1 日 時 平成 30 年 12 月 17 日（月） 19 時 ～ 20 時 20 分
- 2 会 場 江山人権福祉センター
- 3 出席者 【委員】教育環境整備部会員 8 名
【教育委員会事務局（教育総務課）】職員 1 名

4 議 事

(1) 校名募集要項について

これまで校名募集した義務教育学校の例を参考に作成した募集要項（案）をもとに協議を行い、別添のとおり委員会に諮ることとした。

【委員意見】

- ・「応募用紙の受け取り場所」、「応募先」に、美和保育園も入れてはどうか。
- ・募集の周知方法に、公民館にポスター大のチラシを掲示してはどうか。
- ・募集の周知方法として、可能であれば、新聞掲載してはどうか。
- ・「新学校名」の募集をすることについて、事務局から報道各社に資料提供してはどうか。
- ・何をもって「江山地区とのゆかり」としてとらえるか。
→どのような「ゆかり」があるかは、具体的な定義を設けず、選考の段階で応募者の「ゆかり」が妥当かどうか判断をしてもいいのではないか。

(2) 校名募集用紙について

議事 1 で検討した募集要項（案）をもとに、募集チラシ兼応募用紙（案）について協議を行い、別添のとおり委員会に諮ることとした。

【委員意見】

- ・「学年又は年代」を記入していただく必要があるか。
→幅広い年代に親しまれる校名を選考していくことを考えれば、「学年又は年代」も一つの参考になるかと思われる。（事務局）
- ・「学年又は年代」欄について、記載しやすいように「高校生以下」、「一般」というような大きなくくりを明記する。

(3) 校名選定の方法について

これまで校名募集した義務教育学校の例を参考に、選定スケジュール及び選定の手順について協議し、別添のとおり委員会に諮ることとした。

【委員意見】

- ・事前に校内選考をさせるなど、子どもにも選考に係わらせてはどうか。
→非常にいいことではあると思うが、年度末の時期ということもあり、実際のところ、学校としては時間を確保するのが難しい。
→子どもが選考をしなくても、準備委員会による選考の段階で、子どもたちが応募した校名かどうかも一つの判断基準にすることで、子どもたちにとっても校名策定に係わったという気持ちが湧いてくるのではないか。
- ・準備委員会による最終選考において、部会で選定した候補名とは別に、参考として、応募された校名の全リストを委員に配布してはどうか。
- ・選考用紙には、委員の氏名は記入しなくてもいいのではないか。

5 その他

- ・「すごい！学校創造部会」の検討内容になるかもしれないが、江山地区の義務教育学校の特色として、ぜひスポーツにも力を入れていただきたいと考えている。
 - ・例えば、部活動において、ブロックの区切りを境として、小学校課程に該当する学年からでも入部できるようにするとか、個人競技に特化するなど検討してみてもいいのではないか。
 - ・江山ならではの特色を出して、校区外から子どもが集まってくるような仕掛けが何かできないか。
-
- ・次回の部会を、3月12日（火）19:00～20:30 江山人権福祉センターで開催。

第4回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（江山の宝応援部会）概要について

- 1 日 時 平成30年12月18日（火） 19時 ～ 20時30分
2 会 場 大和地区公民館
3 出席者 【委員】江山の宝応援部会員7名
【教育委員会事務局（教育総務課）】職員2名

4 議 事

(1) 広報紙の内容について

- 「江山の明日」について、議事資料のとおりとして提案する。

(2) 通学方法について

[バス通学について]

- 江山中校長より、教職員の間で意見交換したことについて次のとおり報告があった。

【神戸線のバスダイヤ】

平日・休日ともに登校時は、これまでどおり「7：48」着で概ね良いのではないかと。

平日の下校時は、部活動の終了時間や部活動を引退した3年生のことを考慮したところ、4月から9月まではこれまでどおり「16：49、18：20」発、10月から3月までは「18：20」発のバスを40分程度早めることができれば良いと考える。

休日の下校時は、現状としてバス通学の生徒はいつも迎えなので、12時過ぎくらいのバスがあれば良いと考える。

→バス会社に伺ったところ、JR 鳥取駅乗継のことも考慮して、現ダイヤを組まれているようである。（委員意見）

- あくまでも現在の生活時程を前提とした意見であり、新しい生活時程をもとに改めて検討することが必要である。

- 大和地区公民館長より、横枕線が平成31年3月31日に廃止になるため、その代替策として、現在、大和地区まちづくり協議会では、児童生徒の送り迎えを含め、地域住民のために自前輸送ができないか検討しているとの報告があった。

[自転車通学について]

- 江山中校長より、教職員の間で意見交換したことについて次のとおり報告があった。

部活動を現美和小で行うことを前提とし、現在の中学校の自転車通学実態と照らして検討したところ、徒歩（概ね20～25分、1.7km）、自転車（概ね1.7km～6.0km）、バス通学（概ね6.0km以上）としてはどうか。1月にPTA常任理事会があるので、保護者からも意見を伺ってみたいと思う。

- 部活動が、現美和小以外で行われる可能性もあることから、今後色々な場合も考慮して、改めて検討することも必要である。

[その他]

- ・他の義務教育学校では、集団登校はどのようにしているか。
→湖南学園では、ブロックに基づくのではなく、6年生までが集団登校している。

(3) 制服について

○事務局より、湖南学園、福部未来学園、鹿野学園の制服検討の過程について説明してもらい、どのような組織で検討していくべきか検討を行った。具体的には、「3校1園の保護者会役員」、「3校1園のPTAから公募」、「準備委員会のPTA代表」等、組織構成について検討した。

→どのような形で検討するのが良いのか、再度次回の部会で検討することとなった。

【委員意見】

- ・男性、女性の保護者の視点をバランスよく取り入れる必要がある。
- ・この組織は、制服を新たに作成することを前提とするのではなく、これまでの制服を着用するかどうかも含めて検討することになるのではないか。
- ・制服は、規律という点で学校教育の一環であることから、最終的には、学校が決めるものであるので、検討組織を立ち上げる前に、学校がある程度の方針を示すべきではないか。
- ・学校が最終的に決定するが、保護者が費用を負担することから、保護者の意向も把握しながら保護者の了解を得て決定する必要がある。
- ・基本的には、中学校に該当する後期課程3年間着用することがベースであって、ブロック制に合わせて着用時期を変えるか、着用時期が変更になる機会に合わせて制服を新しくするかかどうかという議論になるのではないか。
- ・別の組織となると、PTA会長、校長・教頭は、さらに会が増えることになり、負担が増えるので、準備委員会又は部会の会議直前に実施するなどを検討してはどうか。
- ・基本的に体操服等の学用品については学校で決定し、制服については保護者による検討組織で検討を行う。

5 その他

- ・次回の部会を、2月12日（火）19：00～20：30 大和地区公民館で開催。

ブロック制について（案）

1 学年段階の区切りを設定する意義

- 学習指導面、生活指導面での「中1ギャップ」または「小中ギャップ」の緩和に資する。
- 区切りごとに育成をめざす資質・能力、指導上の重点、具体的な目標等を明確に定めておくことにより、学年完結型となりがちな教員の意識改革を促し、進級や中学校卒業時のイメージした取組を強化できる。
- 小・中学校の教員が協働した教育活動の高度化や、小・中学校段階のよさの学び合いを促す仕組みが設けられる。
- 学年段階の区切りで、儀式的行事等を行うなどの節目を設定することで、児童生徒が自己の発達を自覚することができ、さらなる成長を促すことができる。

2 区切りの根拠となる要素

- ①生徒指導上の要請
 - ・身体的発達、思春期の到来が2年程度早期化
 - ・高学年から自己肯定感や自尊感情の低下
- ②学習指導上の要請
 - ・小学校中学年まで具体物を用いた思考 → 高学年から抽象的・論理的な思考が増える。
 - ・学習内容や量が高学年から増える。（学習指導要領、教科書）
 - ・中学年で学習につまずく児童が増え、その後も学力低位のままていることが多い。
 - ・中学年までに基礎基本の徹底、学習規律、生活習慣、家庭学習習慣の定着が必要
 - ・中学2年から学習内容の難易度が上がる。高校入試の問題も中2で習う内容が多い。
 - ・中学2年あたりで精神的に大きな発達が見られ、自分の進路について考えることが多くなる。
- ③小・中学校段階の接続の円滑化
 - ・小学校、中学校段階の融合した指導

3 江山中学校区の実態と根拠となる要素の関連

- ①について
 - ・各種アンケートで、5年生から自己肯定感の低い児童が増えている。これは、「授業が分からない」など、学習面でのつまずきから来るものが多いと思われる。
 - ・成長の早い児童には中学校段階での生徒指導が効果的である。
- ②について
 - ・中学年までの基礎基本の徹底ができていると、高学年で学力の向上が見られる。
 - ・教員が9年間の教科の系統性を知った上で指導するので、児童のつまずきが見えやすい。
 - ・教科担任制で複数の教員と関わることが、高学年児童にとっては自己の伸長、教員にとっては職能向上につながるであろう。
- ③について
 - ・校舎一体型で、学校規模が大きくないので小学校、中学校のよさを生かした教育がしやすい。



上記のことから、4－3－2のブロック制を提案する。

〈留意点〉

- ・各ブロックの最初の学年では、急激な変化にならないよう丁寧に指導する。
- ・「必要な段差」と「不必要な段差」を精査し、段差を適切な状態に整える。

「ブロック制」は教育活動の質を高める手段であって、目的ではない！

江山地区義務教育学校「新学校名」募集要項（案）

1 募集の目的

義務教育学校（小中一貫校）の校名を決定するとともに、江山地区の住民や保護者をはじめ多くの方に、江山地区に新たな学校が開校することを広く PR する。

2 募集の方法

(1) 応募資格

江山地区在住の方、江山地区出身の方、又は江山地区に「ゆかり」のある方。

(2) 応募方法と応募先

所定の応募用紙の持参、郵送、ファクシミリ、電子メールによる。応募用紙は、神戸地区公民館、美穂地区公民館、大和地区公民館、神戸小学校、美和小学校、江山中学校、美和保育園、鳥取市教育委員会事務局校区審議室から受け取れる。また、鳥取市公式ホームページ（校区審議室のページ）からダウンロードすることができる。

ア 持 参	神戸地区公民館、美穂地区公民館、大和地区公民館 神戸小学校、美和小学校、江山中学校、美和保育園
イ 郵 送	〒680-8571 鳥取市上魚町 39 番地 鳥取市教育委員会事務局校区審議室
ウ ファクシミリ	0857-29-0824
エ 電子メール	kokushingi@city.tottori.lg.jp

(3) 必要記入事項

応募に当たっては、所定の応募用紙に記入するものとする。なお、応募者の個人情報については、この募集に関する事以外には使用しない。

- ア 学校の名称（漢字の名称の場合はふりがなを付ける）
- イ 学校名を考えた理由、思いなど
- ウ 氏 名
- エ 住 所
- オ 年 齢
- カ 性 別
- キ 連絡先

(4) 応募条件

- ア 1人につき1点の応募に限る。
- イ 学校名には、漢字、ひらがな、カタカナのみを使用すること。
- ウ 市内にある既存の小学校、中学校及び義務教育学校の名称は無効とする。

3 募集期間

平成31年2月1日（金）から平成31年2月28日（木）まで

※郵送による応募は平成31年2月28日（木）必着

4 募集の周知

広報紙「江山の明日」及び鳥取市公式ホームページに掲載するとともに、江山地区の公民館等にポスター大の募集チラシを掲示する。

5 選考主体

江山地区義務教育学校設立準備委員会

6 新しい学校名の発表

広報紙「江山の明日」及び鳥取市公式ホームページにて発表する。

7 応募作品について

- ア 決定した学校名の著作権は、鳥取市に帰属する。
- イ 採用された名称の応募者には、記念品を贈呈する。
- ウ 同一の名称に応募多数の場合は抽選とする。

8 その他の必要事項

この要項に定めるもののほか、新学校の名称募集等に関し必要な事項は、委員長が別に定める。



新学校名の 募集について



神戸小学校、美和小学校、江山中学校を統合した義務教育学校(小中一貫校)の開校に向け、学校、保護者、地域の代表で組織する「江山地区義務教育学校設立準備委員会」では、平成32年4月の開校を目指して準備を進めています。

このたび、児童生徒や地域の皆さんに親しまれる学校となるよう、『新学校名』を募集します。皆さんからの多数の応募をお待ちしています。

【募集要項】

- 募集内容 江山地区義務教育学校(小中一貫校)の校名
- 募集期間 平成31年2月1日(金)～平成31年2月28日(木)※必着
- 応募資格 江山地区在住の方、江山地区出身の方、又は江山地区に「ゆかり」のある方
- 応募条件 ・1人につき1点の応募に限ります。
・学校名は、漢字、ひらがな、カタカナのみを使用してください。
- 応募方法 裏面の応募用紙1枚につき、学校名1点とし、必要事項をご記入のうえ、持参、郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかの方法で応募してください。
- その他 ・採用された方には記念品を贈呈します。同一の名称に応募多数の場合は抽選とします。
・決定した学校名は、鳥取市公式ホームページ(校区審議室のページ)などで発表します。
・決定した学校名の著作権は鳥取市教育委員会に帰属します。
・応募用紙は、神戸地区公民館、美穂地区公民館、大和地区公民館、神戸小学校、美和小学校、江山中学校、美和保育園、鳥取市教育委員会(校区審議室)から受け取れます。また、鳥取市公式ホームページ(校区審議室のページ)からもダウンロードできます。
・応募者の個人情報、この募集に関すること以外には使用いたしません。
- 選考主体 江山地区義務教育学校設立準備委員会
- 応募先 【ご持参の場合】
神戸地区公民館、美穂地区公民館、大和地区公民館、
神戸小学校、美和小学校、江山中学校、美和保育園
【郵送・FAX・メールの場合】
江山地区義務教育学校設立準備委員会事務局 鳥取市教育委員会校区審議室
〒680-8571 鳥取市上魚町39番地
TEL:0857-20-3089 FAX:0857-29-0824
メール: kokushingi@city.tottori.lg.jp



江山地区義務教育学校(小中一貫校)

「新学校名」応募用紙



1 応募者について

ふりがな 氏名		性別	*江山地区との「ゆかり」について
		男・女	*この欄は、江山地区以外にお住まいの方のみ、ご記入ください。 ()
現住所	〒 ー		
電話番号			
学年または年代 ○で囲んでください	【園児、小・中学生、高校生】 ・ 幼児 ・ 小学校(年) ・ 中学校(年) ・ 高校(年) 【一般】 ・ ~10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代 ・ 70歳代~		

2 応募学校名

ふりがな 学校名	考案理由
	*名前に込めた思いや考えられた理由をご記入ください。

ご応募いただきありがとうございます。



校名案選定の方法について（案）

1 校名案選定のスケジュール

教育環境整備部会で第1次選考(3月12日)

準備委員会で最終選考(3月中旬)

市長に委員会における校名案の報告・市長が校名案を決定(4月)

市議会に条例改正案を上程(6月)

2 選考方法

【第1次選考】

- ・2月末の締め切り後の3月5日(火)学校送達便で、教育環境整備部会員に、応募リスト(番号、学校名、よみがな、考案理由)と選考用紙を配布。
- ・教育環境整備部会員は、応募リストの中から5点を選び、選考用紙(無記名)に記入し、教育環境整備部会に持ち寄る。
- ・教育環境整備部会において、事務局が選考用紙を回収し、集計結果を報告する。
- ・集計結果をもとに、園児児童生徒別・年代別の応募状況も加味するなど、総合的に協議し、準備委員会に諮る校名案を決定する。

【最終選考】

- ・第1次選考で決定した校名案について、部会での協議結果の報告を受けて、委員で選考方法を確認した後、選考用紙(無記名)により委員1名につき〇点を選ぶ。(部会協議結果報告の際に、参考資料として、第1次選考で漏れた校名を含む応募リストを全委員に配布する。)
- ・選考用紙を回収し、事務局が集計をする。
- ・集計結果をもとに協議し、市長に報告する校名案として、3点程度に絞り、委員会としての選考理由を付す。

江山の明日



第 **3** 号
平成31年1月

～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

美和保育園・美和小学校・神戸小学校の合同学習

- 6月11日(月) 美和小・・・1年生:体育・学活/2年生:国語・体育
- 7月 6日(金) 美和小・・・1年生:国語・生活/2年生:算数・生活/3年生:道徳・体育/4年生:学活・外国語活動
- 7月 9日(月) 神戸小・・・5年生:社会
- 7月17日(火) 美和小・・・6年生:学級活動・図工
- 10月18日(木) 神戸小・・・2年生:学級活動・なかよし給食/4年生:総合的な学習・外国語活動
- 10月25日(木) 美和小・・・1年生:学級活動・生活
- 10月31日(水) 美和保・・・美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流
- 11月 8日(木) 神戸小・・・3年生:さくらやまマラソン、国語音読・社会科見学・ダンスの発表
- 12月13日(木) 美和小・・・1年生:生活/2年生:生活
- 12月17日(月) 美和保・・・美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流
- 12月18日(火) 神戸小・・・6年生:鳥取市役所職員による出前授業

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

めざす子ども像「自ら学び、豊かに表現する子ども」「思いやりの心もち、進んで人と関わる子ども」「心も体も健やかに、たくましく生きる子ども」を受け、「交流」と「情報」を特色ある教育のキーワードとして協議しています。

- 多様な人やモノやこととの交流を通して、進んで人と関わり豊かに表現するコミュニケーション力を育成する。
- 地域との交流を通して、豊かな人間関係を築き、地域の伝統文化を継承し、ふるさとを大切に思う心を育成する。
- 地域での交流体験の積み重ねで、共生社会をめざしたまちづくりについて考え、自分自身の生き方につなげる。
- グローバル化社会やAI(人工知能)の時代を生きる子どもに必要な英語やICT(情報通信技術)を使った双方向のコミュニケーション力を育成する。
- 超スマート社会に必要な力とスキルの育成

「教育環境整備部会」

「長寿命化校舎」への改修で新しくなる学校施設の教室配置や改修工事に伴う仮設校舎について検討中です。

また、校名・校歌・校章の制定方法を検討しています。

- 新しい学校の校舎は現校舎を長寿命化改修し、不足する教室を増築
長寿命化改修工事期は仮設校舎を使用する。
- 仮設校舎(建設場所:校庭)
- 校名案は公募により今年度中に決定予定 ※詳細は別紙「募集要項兼応募用紙」をご覧ください。また、「募集要項兼応募用紙」は神戸・大和・美穂地区公民館にも設置してありますので、そちらで受け取ることもできます。
- 校歌・校章は来年度後半に決定予定

「江山の宝応援部会」

通学方法等について、協議しました。

<通学方法>

- 2019年10月頃までに日ノ丸バスにダイヤ改正を要望
- 中学生の自転車通学区域をどうするか？
中学生の自転車通学区域と小学生の徒歩通学区域が重なっている地域の通学方法をどうするか等生活時程や部活動後の下校時間等を考慮して決定する。
- 進捗状況報告会
12月10日(月)美穂地区公民館、12日(水)大和地区公民館、13日(木)神戸地区公民館で開催しました。
- 意見募集のため、「意見・質問ボックス」を各地区公民館に設置

義務教育学校Q & A

小中一貫教育のメリットはなんですか？

文部科学省によると、小中連携・一貫教育の取り組みを進めているほぼすべての市町村で成果があったといえます。具体例としては、

- ・中学生の不登校の減少
- ・学力調査などの平均正答率の上昇
- ・児童生徒の規範意識の向上
- ・異年齢集団での活動による自尊感情の高まり
- ・教職員の児童生徒の理解や指導方法の改善意欲の高まり

などがメリットとして挙げられています。

鳥取市の各中学校区でも、小中連携で教育がなされており、江山中学校区では美和保育園を交えた「特色ある江山中学校区推進委員会」のもとで、学校・家庭・地域の3者が協働して共通した「めざす子ども像」を目指した教育がなされています。

しかし、小中連携教育はそれぞれの園や学校がそれぞれで目標をめざしていくもので、保育園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続をめざすものです。

それに対して、「小中一貫教育を行う義務教育学校」は、一つの学校として一貫した系統的な教育を行うことで、小中連携よりも教育効果があります。ここでは、小中一貫教育のメリットを活かして、江山校区に設置される施設一体型の義務教育学校のねらいについて考えてみます。

当然、メリットがあればデメリットもありますが、デメリットについては、その対処方法と合わせ

江山地区に義務教育学校を設置するねらい

ねらい 1 子どもたちの学力を伸ばす

- 9年間の連続した系統的な学習で、学力を高める。
- 子ども学習状況(つまずき等)を把握して、学習指導に当たる。
- 学年の範囲を超えて指導内容の入れ替えが可能になる。
＜例＞中学校1年数学「正と負の数」を小学校6年算数で前倒して行う。
- 教科担任制を取り入れ、より専門的な授業を行う事によって、学力を高める。

ねらい 2 子どもたちの不安を取り除く

- 教育環境が変わることから来るいわゆる「中1ギャップ」等の不安を取り除く。
※「通い慣れた学校」、「知っている先生」

ねらい 3 異学年交流活動で自尊感情を高める

- 中学生は、低学年に対する思いやりの気持ちが育ち有用感が高まる。

ねらい 4 良きモデルと憧れで規範意識を育てる

- 年齢差がある共同生活で子どもたちの規範意識を高める。
- 低学年児童が中学生に対する憧れを持つことができる。

ねらい 5 多人数、多年齢での集団生活で協働性を身につけさせる

ねらい 6 多年齢に応じたコミュニケーション能力を育成する

ねらい 7 地域を思う子を育てる

- 江山校区に学校を残し、地域の中で子どもを育む。
- 地域の人達と交流したり、地域教材を学んだりすることで、地域の良さを知らせる。

ねらい 8 地域住民がこれまで得た経験や知識を活用して、積極的に学校に関わることで、地域の活性化をはかる